平成２９年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　札幌市　】

１実践テーマ	【Ⅰ、Ⅴ】
２実施対象者	札幌市立大倉山小学校 ４年生　55名
３展開の形式	（１）学校における活動 ①教科名（　総合的な学習の時間・道徳　） ②行事名（　　　　　　　） ③その他（　　　　　　　） （２）地域における活動 ①イベント名（　　　　　　　） ②その他　（　　　　　　　）
４　目　標 （ねらい）	・オリンピックを通して、スポーツのみならず町や人々の暮らしが発展することを知り、世界のたくさんの人々が繋がっていることに気付く。 ・オリンピックに向けての選手たちの絶え間ない努力やオリンピックを支える人々や選手を取り巻く人々の思いに目を向けることで、自分の将来についての考えを深めるための視点をもつことができる。
５　取組内容	「オリンピアン」を招いての講話 ○指導計画［１０時間扱い］ （総合的な学習の時間　１時間） ・地域の身近な場所の一つとして大倉山のジャンプ台を取り上げ、そこで行われた冬季オリンピックについて知っていることを交流し合い、学習を知る。 （総合的な学習の時間　３時間） ・オリンピックミュージアムでの現地学習を行い、冬季オリンピックの競技や歴史、意義について知る。 （総合的な学習の時間　３時間） ・競技や歴史、選手やそれを支える人々など、興味をもったことについて調べ学習を行い、私たちの暮らしとどのように関わっているのかに気付く。 （総合的な学習の時間　１時間） （道徳（勤勉努力）１時間） ・冬季オリンピアンによる講話を行う。

	（総合的な学習の時間　１時間） （道徳（勤勉努力）１時間） ・オリンピックについて学んだことをまとめるとともに、夢の実現に向けて大切にすることは何かを考えることを交流する。
６　主な成果	学習のまとめとして、自分の課題について分かったことや、新しく発見したことなどを新聞にまとめ、みんなで交流した。 今回の「オリンピアンの桧野さんのお話」を聞く学習を通して、子どもたちはボブスレーなど競技や種目、選手たちの絶え間ない努力はもちろんのこと、オリンピックを支える人々や選手を取り巻く人々の思いに目を向けることができた。また、オリンピックバリューやモットーは普段の自分たちにも通じることだと感じたり、オリンピックの開催が町や人々の暮らしを発展させることにも気づいたりすることができた。 学習後に行われたピョンチャンオリンピックやパラリンピック、2020 年の東京オリンピックの話題が子どもたちから出てくるようになり、身近に感じて興味を増した子が増えた。 東京で開催されるときには今回の学習の成果をもとに、これまでとは違った視点で見たり考えたりすることができそうである。今回の学習では、オリンピックを身近に感じた子どもたちの「知りたい」という思いに応えることができ大変効果的であった。
７実践において工夫した点（事業の特色）	取組の内容に記載した通り。
８主な課題等	総合のカリキュラムにおいて、もっと早い時期に桧野さんのお話を聞き、興味をもったことをオリンピックミュージアムで調べるという流れが効果的だと考えられる。 オリンピアンの方の講話は貴重な機会であり、子どもたちの質疑応答にかなりの時間が必要だった。事前の打ち合わせを出来れば数回行い、学校側の要望をより具体的にお願いするとより学習が深まるだろう。
９来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。